

ダイバーシティ推進 オフィス ニュース

Vol. 3

みずき ▶ Diversity Promotion Office News

平成 30 年 8 月 6 日

ホームページが新しくなりました!

男女共同参画室/ダイバーシティ推進オフィスって何をしているところなの?
そんな疑問に応えるべく、よりわかりやすく、新鮮な情報を皆様に届けるため、男女共同参画室/ダイバーシティ推進オフィスのHPをリニューアルしました。

URL : <http://park.saitama-u.ac.jp/~kyodo-sankaku/>

埼玉大学 男女共同参画室

検索

今回のリニューアルで、大きく変わった点は・・・

「彩の国女性研究者ネットワーク」のサイトの活動が、より見やすくなりました。同ネットワークでは、現在、15機関が参加し、次代を担う若手研究者・技術者の育成に向けて活動中です。同ネットワークからのシンポジウムやセミナーなどのお知らせも随時掲載しています。フェイスブックでも、リアルタイムな情報をアップ中です。

「ダイバーシティ相談」の申し込みも容易になりました。ホームページ上の相談申込アドレス「diversity-soudan@gr.saitama-u.ac.jp」をクリックして、希望日時や連絡先等を送信してください。

当室発行の印刷物がダウンロードできるようになりました。「Saitama University Diversity Report(2017年度ダイバーシティ推進事業活動報告書)」、「in the Lab.(埼玉県における女性研究者のロールモデル集)」や「ダイバーシティ推進オフィスニュースみずき」のバックナンバーを掲載しています。

そのほかにも、新しい情報がいっぱいです。「男女共同参画室/ダイバーシティ推進オフィス」のホームページにはみなさまにとって、役に立つ情報を掲載しています! ぜひ、アクセスしてみてください。



「ファミサポ@埼玉大学」をご利用ください!

さいたまファミリー・サポート・センターは、育児の援助を受けたい方(依頼会員)と育児の援助を行いたい方(提供会員)からなる会員組織です。依頼会員に登録すると、子どもを預ける育児援助を受けることができます。通常保育が実施されない夕方や土曜日・日曜日にも、提供会員に子どもを預けることが可能です。提供会員は、さいたま市にお住まいで、講習会を受けて登録をした方です。育児援助は原則として提供会員の自宅で行いますが、埼玉大学の教職員は、学内(教育学部F棟プレイルーム)で子どもを預けることもできます。詳細は、男女共同参画室のホームページ「<http://park.saitama-u.ac.jp/~kyodo-sankaku/support/index/>」をご覧ください。



例えば、こんなときに育児援助を受けることができます。

- 授業1コマ分の2時間だけ子どもを預かってほしい!
- セミナーに参加する3時間、子どもを預かってほしい!
- 習い事や塾に子どもを迎えに行き、連れてきてほしい!
- 土曜日・日曜日に開催される学会参加のために、終日子どもを預かってほしい!

ファミサポ入会説明会・講習会
開催します!

9月20日(木) 9:15~12:15
@大学会館2階ラーニングコモンズA

「数字で見る埼玉大学の女性教員」公開中!

IR Report Vol.2にて、埼玉大学の教職員・女子学生のデータを公開しています。詳細は男女共同参画室HPをご覧ください。

男女共同参画室員のご紹介 平成30年度の男女共同参画室員の方々を、みずき Vol.3 と Vol.4 にてご紹介いたします。

理工学研究科 教授

日原 由香子

ダイバーシティ推進オフィスの活動の2本の柱の1つは、理系女性研究者の活躍推進、ということで、理工学研究科から女性教員を代表して男女共同参画室に加わっている私はとても重要な役割を担っていると感じられます。若手からベテランまで、様々な立場・ライフステージにある女性教員の生の声を委員会の場にお届けし、より有効なサポートのアイデアを打ち出していきたいと願っております。どうぞよろしくお願い申し上げます。

理工学研究科 准教授

本間 俊司

学生時代を含めると埼玉大学に来てから35年が経ちました。以前よりも理系の女子学生や女性教員が増え、海外からの留学生や研究者も多くなりましたが、多様性という観点からすれば、まだ改善の余地があると思います。Diversityという単語は人の多様性だけでなく思考の多様性も含み、大学ならびに学問の発展にとって不可欠なキーワードです。埼玉大学のダイバーシティ推進に少しでも貢献できるよう男女共同参画室の室員として活動して参ります。

教育学部 教授

首藤 敏元

最近、男性優位の社会を「おっさん社会」と言うそうです。「おっさん社会」を成立、維持させている社会通念は、家庭、地域社会、マスコミ、そして学校の文化的文脈の中で再生産され、次世代へと受け継がれていきます。埼玉大学が「おっさん社会」にならないために、まず男性も活用できる制度を考えること、そして教育学部附属校園の教員が埼玉県・さいたま市の教員と同程度の多様な働き方を実現できる制度をつくる必要があると考えています。

人文社会科学部 准教授

結城 剛志

今年度から男女共同参画室に同席させてもらえることになりました。室員として男女共同参画事業を推進する立場になったわけですが、男女共同参画というどうしても自分のこととして考えてしまい、利用者目線にとらわれてしまいます。そんなことではいけないと、自分を奮い立たせながらかわっていききたいと思います。どうして社会の懐がこんなにも寂しいのか、世知辛い世の中ですが、世の中を少しずつ良くする取組みなのだと思っていて進んでいきたい所存です。

国際室国際主幹

田辺 清美

2018年4月より、男女共同参画室に室員として参加させていただくことになりました。本学が「誰もが学修しやすいキャンパス」「誰もが働きやすい職場」となる様、職員の立場から貢献したいと考えています。男女共同参画実現のためには、大学構成員の意識向上も重要ですので、ひとりでも多くの構成員に男女共同参画関連イベントへの参加を通じ、この問題を考えることをお願いしたいと思います。

基盤教育研究センター 准教授

渡辺 大輔

私の専門はセクシュアリティ教育です。そこでは、性は多様であるということの基本としています。これまで、性別違和がある学生（トランスジェンダー）の学内における通称使用の申し立てへの支援をはじめ、性的マイノリティの学生の相談（研究相談を含む）なども受けたり、「性の多様性」についての学習会も開催してきました。すべてのセクシュアリティの学生および教職員が安心して学び、働ける環境づくりに今後も力を注いでいきます。

SU Diversity Seminar を開催しました!

vol.1 UNESCO と ユネスコ・インターンシップの紹介



UNESCO 専門官補の有松唯氏をお招きし、埼玉大学 Lab-to-Lab Exchange Program と当室の主催で開催しました。ユネスコという職場の多様性、ユネスコで働くことの醍醐味、専門分野を問わず、どのような学問をしてきた学生もユネスコで力を発揮できることやインターン制度のしくみ・雰囲気などを、わかりやすく説明していただきました。また、男女共同参画についても触れられ、様々な国の方が働いているユネスコでは、性別によるハンディキャップは全くなく、子育てとの両立も可能だとお話をされていました。



vol.2 ヨーロッパにおける 女性研究者・技術者のキャリア形成



Magdalini Theodoridou 氏 (Cardiff University, UK) をお招きし、埼玉大学 小口研究室と当室の主催で開催しました。今回は EU 圏で行われている若手女性研究者のモビリティフェローシップについてご講演いただきました。その事業の成果として、ワークライフバランスを保ちつつ研究者としてのキャリアを積んでいったロールモデルが紹介されました。EU 圏と日本の科学者育成についての認識の違いを学ぶ良い機会となりました。

